

漂流軽石回収技術検討ワーキンググループ（第1回） 議事概要

日時： 令和3年11月5日（金） 15:00～16:30
場所： 国土交通省10階港湾局会議室（WEB併用）

1. 主な議事

○事務局（港湾局技術企画課）より、本ワーキンググループの設置目的及び今後のスケジュール等について説明をした後、構成員による意見交換を行った。

2. 主な意見

- 今後の作業量の見通しを立てるためにも、処理すべき漂流軽石の量を把握しておく必要がある。
- 回収方法の実例としてサンドポンプ、バックホウ、タモ網の3種類について説明されたところだが、どのような現場条件であればどのような方法が適しているかという観点で整理する必要がある。また、それぞれの方法の強みを生かすため、複数の方法を併用することも検討する必要がある。
- 国においては、海洋環境整備船を用いて海面に浮遊しているゴミの回収を実施していることから、その方法を参考とした軽石回収方法を検討するなど、更なる効率化について検討を進める必要がある。
- 多くの現場において、陸上からバックホウを使用して回収する方法が採用されているが、常に陸から回収できるというわけでもないため、台船等を用いた海からのアプローチを検討して、様々な状況に対応できるように準備しておくことが重要である。
- 今後の軽石回収作業の効率化を図るため、これまでに実施してきた軽石回収の結果を踏まえて、例えばオイルフェンスの取扱い方法等の具体的なノウハウや、回収方法毎の処理能力の目安を取りまとめて関係者で共有する必要がある。また、成功例だけでなく、試行錯誤した過程についても共有することが有益である。
- 軽石を回収するための作業船について、冷却水の確保が大きな課題であるが、対応策については技術的に確立されていない。このため、様々な選択肢を幅広く検討していく必要がある。
- 本ワーキンググループにおいて得られた知見については、一部でも良いので出来るところから先に段階的な情報発信を行う必要がある。

以上